

インタビュー

100年を超えて秩父の木を製材し続ける老舗企業 いち早くプレカットに取り組み、設備と技術を蓄積

小池 文喜 株式会社ウッディーコイケ代表取締役社長



こいけ 文喜 氏

- 1952年 秩父市出身
- 74年 慶応義塾大学商学部卒業
- 同年 伊藤忠建材販売株式会社入社
- 79年 株式会社小池製材所入社
- 88年 プレカット工場新設
- 93年 株式会社ウッディーコイケに商号変更
- 2001年 代表取締役社長に就任
- 07年 デザイナーズモデルハウス「平成ロマン館」完成

秩父商工会議所常議員
秩父法人会常任理事 総務委員長

株式会社ウッディーコイケは、小池社長の祖父である小池竹治氏が秩父で製材業を創業してから100年の歴史を刻む老舗企業である。

立木の伐採から製材へと事業を展開し、1980年代からは取引先の木造住宅メーカーの要請に応え、設備の拡充と技術の向上に取り組む。現在は在来工法プレカット、羽柄プレカット、金物工法プレカット、CADによる設計支援業務など住宅メーカーや工務店に住宅建設にかかわる木材一式とそれに付随する

サービスを提供している。

また、国産材をふんだんに使用した異国情緒溢れる100年住宅「平成ロマン館」の建設、天然物質のホウ酸を使用した防蟻処理方法、国産材の外構用木材の開発など、国産材と住宅の長寿命化にこだわった独自の提案も行う。

「国産のスギやヒノキの香りはやっぱりいいですよ。これからも木のぬくもりを伝えていきたい」と小池社長は語る。

先々代が秩父で製材業を始めて100年 スギ・ヒノキなど国産材の製材工場へ

——製材業界では県内有数の企業と聞いておりますが、どういったことから秩父で製材業を始められたのでしょうか。

創業者の祖父は、青雲の志に燃えて秩父郡荒川村（現秩父市）の親戚筋をたよって新潟から出てきました。そこで酒や味噌の製造を手伝い、作ったものを当時盛んだった炭焼きで働く人たちに売りに行くうちに、自分でも人を雇って薪炭の生産をするようになります。さらに、炭の材料を得るために山を買って立木の伐採を始めます。その中に黒木といって炭には適さないスギやヒノキがあると、製材所で製材をしてもらうのですが、製材賃が高い。それならば自分で製材しようと考えたのが製材業の始まりです。

1911年（明治44年）に創業し、戦争中は製材工場を国に取り上げられたこともあったようです。戦後は、山から原生林を切り出す仕事を熱心にやっていた時期もありました。伐採した丸太を土場（どば：伐採された丸太を加工するまでの間貯蔵する場所）に置いておくと、銘木屋（一般の木材に比べて材質に優れ、なおかつ希少な木を販売する業者）が来て買っていくのです。秩父には、太くて立派



影森駅近くの貯木場（土場）

な幹のケヤキなどが結構ありました。

その後、今からもう何十年も前になりますが、環境庁（現在は環境省）が奥秩父の原生林の伐採を禁止。それで植林木を扱うようになりました。現在の植林木のほとんどは、県の農林公社が山を持つ地主と契約を結び、手入れは農林公社が行い、立木が売れたら収益を地主と分け合う形の県造林となっています。農林公社が計画的に植林を行っているのので、ほぼ毎年立木が売りに出ます。我々業者は入札でその立木を買い、伐採して山から木を出します。植林木はスギ・ヒノキがほぼ100%、まれにサワラ（樅）が混ざっているぐらいです。

現在、当社の工場で製材している木材の50%がこのようにして立木を買って山から切り出したもので、残り半分は、主に飯能市や群馬県藤岡市の原木市場で買い、場合によっては栃木、山梨、静岡、神奈川、東京の原木市場から買うこともあります。山から切り出した原木は太さ別に分けて貯木場に置いておき、「今日は、直径何cmで長さ3mのスギを製材する」となれば、貯木場からそれに合う丸太を持ってきて、形状を測定して柱や板に製材します。

原木市場から買った原木は太さ別に仕訳さ

れているので直接必要な丸太を工場に持って来ます。

埼玉県では、飯能も「西川材」という材木の産地で有名ですが、西川材は和室の見える部分に使う節のない無節とか節があっても少ない上小節といった希少性の高い材木で、枝打ちをして丁寧に育てられた高級品です。それに対して秩父の木は、並材といって住宅の構造体などに使われます。当社はそうした並材の量産工場という位置づけになります。

最新の技術設備を導入した当社の製材工場では、スギ・ヒノキなどの国産材を製材し、長尺や大径材などのニーズにも対応しています。

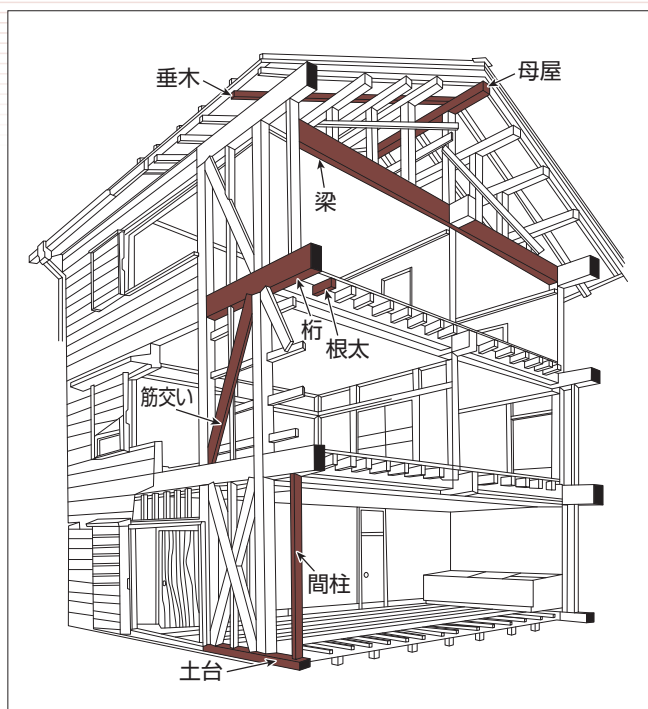
乾燥材、集成材へと変化に応じて設備拡充 プレカットにいち早く着手し、技術を蓄積

——1988年にプレカット工場新設とありますが、大工さんが建築現場でのこぎりやかんなを使ってする作業工程を工場で行うのがプレカットということですか。

当社の主要なお客様は、国内最大手の木造住宅メーカーで、取引は柱に使われる角材に社名を刷り込んで指定の納材店（製材業者とハウスメーカー等を仲介する材木店など）に納めるところからスタートしました。当時の当社の主力製品は、乾燥していない天然木のスギ・ヒノキでした。必要な材木を納材店が



熱源に木屑等を利用して環境にも配慮した全13基の乾燥庫



建築現場に運び、そこで大工さんが刻んで住宅を建てていました。それが次第に住宅メーカーの指導のもと当社で乾燥庫をつくり、乾燥材で納めるようになってきました。

次に、プレカットを始めるという話になり、納材店に納めていた製材業者が集められてプレカットの説明を受けました。すぐに手を挙げれば何十棟分かは発注するとのことで、「これは、やるしかない」とプレカット工場をつくることを決めました。

当初は、一般の工務店が当たり前のようにプレカット製品を使うことなど考えもしませんでした。大手メーカーならともかく、そんなことはないだろうと。しかし、今では神社仏閣のような特殊なものでない限り、一般の工務店でもほとんどプレカット製品を使うようになっています。

現場施工者から見れば、図面を当社に送れば、上棟の日にはコンピュ

ータで制御された機械を用いてプレカットされた木材が届くわけですから、建築現場で加工する方法に比べたら、工期の短縮や建築費の積算精度の向上、現場で木くずが出ないなどコストダウンが図れるし、お天気や大工さんの技量の差などに左右されることがありませんから便利なのです。

プレカット製品は現場では組み立てるだけで済むように、寸法を正確に刻み、見える柱はきれいに削って養生紙を巻いて、一棟分の材木をすべて整えて納めます。

——大工さんの腕は関係なく、プレカットされた材木を組み立てれば、家が建ってしまうのですか。

敷居・鴨居・長押（なげし：柱と柱を水平につなぐ部材）などの造作材の取り付けなどは現場でやりますが、構造体に限ればそういうことです。

プレカットも最初のころは、柱と梁（はり）、桁（けた）、母屋（もや）、土台等の大きな構造材だけでしたが、今は、羽柄材（はがらぎ



コンピューター制御された機械を用いて「プレカット工法」をいち早く取り入れ、加工精度・施工精度を図りながらコストダウンと高品質材の安定供給を実現

い：端柄材とも書く。原木から大きな用材を取った後に残った材で製材された板類や小角材の総称。構造材を補う材料や下地材のことという野地板（ストレートや瓦など屋根材の下地材）や野地板を支える垂木（たるき）、壁の下地の間柱（まばしら）、床下地の根太（ねだ）、開口部の下地部材である窓台・まぐさなど全部をプレカットします。小さな羽柄材は現場でやってもいいのですが、特に大手住宅メーカーさんの場合は、精度を上げるために細かい部材までもプレカットするようになっています。

羽柄材のプレカットを始めるときも、住宅メーカーに「今度は羽柄材のプレカットをやる」と言われ、在来工法のプレカット工場とは別に羽柄材のプレカット工場もつくりました。

工法もどんどん進化していますが、大きく2分されています。一つは、昔から採用されている接合部にピンを使用し、筋交いや構造用合板などの面材で横からの力に対抗する「木造軸組工法」と、もう一つは筋交いや面材を不要とする柱や梁を剛接合している「ラーメン工法」です。

「木造軸組工法」も柱と梁の結合の仕方で、

昔ながらのアリ・カマ・ホゾを主に使う「在来継手仕口」と阪神大震災以降耐震の影響で補強金物が使われる「金物継手を使う工法」に細分されます。今では補強金物を使う工法が一般化しており、当社ではその工法の一つである「スペースロック工法」に力を入れています。この工法の特徴は、在来工法の「羽子板金物」「ホールダウン金物」「柱接合金物」が一切不要になるほか、コストダウンと施工性の向上が図られ、軸組材の全てに構造用集成材を使用し品質の安定も図っています。羽柄材から合板類、断熱壁パネルまで、プレカットして現場に収めています。

一方、「ラーメン工法」の代表的工法は「鉄骨造」ですが、剛接合をフィンボルトという特殊金物を使用して木造で行っているものを「ビッグフレーム工法」といいます。当社ではその特殊金物をはめ込むプレカットに開発当初から関わり、どのように刻んだらよいかプレカット機械の改造にも取組んできました。「ビッグフレーム工法」は柱と梁だけで建物の骨組みを作る工法で、筋交いが不要なため開口部が広くとれ、一階が店舗だとかガレージにするには非常に都合がいいわけです。



▲梁継ぎ手



▲枕モタセ



▲回転防止機能

軸組材の全てに構造用集成材を使用し、品質の安定を図っている「スペースロック工法」の導入によって、在来工法の金具が一切不要になりコストダウンと施工性の向上が達成できている

また、長期間にわたって陳腐化しない住宅ということで、構造体だけをつくっておいて中の間仕切りを自由に変えられるスケルトンインフィル（建物のスケルトン（柱・梁・床等の構造躯体）とインフィル（住戸内の内装・設備等）とを分離した工法による住宅）にも向いています。

「ビッグフレーム工法」が2～3年前から売れ始めてきて、今は生産が間に合わないくらいになっています。しかし、在来工法のプレカットが減り、2つの工場のバランスを取るのが課題となっています。

このようにして、住宅メーカーの指導の下で設備し、技術力を高めてきました。最初は1社のためのプレカット工場でスタートしましたが、在来工法、羽柄材、金物工法プレカットが可能ということで取引先も広がり、木造住宅メーカー数社や工務店のプレカットを行っています。

また、強度や精度を上げるために大手住宅メーカーほど天然木を使う比率が下がり、集成材（断面寸法の小さい木材（板材）を接着剤で再構成して作られる木材加工品）や合板・LVL（スライサーなどの切削機械で切削された単板の繊維方向を、すべて平行にして積

層・接着して造られる木材加工品）などのエンジニアリングウッドを多く使うようになっていています。当社にも集成材工場はありますが、集成材は乾燥した板材を張り合わせることで天然木に生じるひび割れやねじれ、そり等の不安定な要素を分散、強度が安定しています。規格に合った製品を大量に生産できて便利なことから全国的に使用量が増加しています。最近では集成材や合板にも国産材が使われるようになってきました。

大正ロマンを彷彿とさせるデザインと時代を経ても資産価値の下がらない住宅「平成ロマン館」

——2007年には、老舗の製材業者がつくる100年住宅として木造の洋館「平成ロマン館」を建設されましたが、どんなコンセプトのモデルハウスなのですか。

平成ロマン館の建設は、古くなっても価値



▲▶大正・昭和初期のロマンを彷彿とさせる「平成ロマン館」の外観と秩父産の無垢材をふんだんに利用した室内の様子



の落ちないような住宅を日本にも造ろうという思いから、秩父の熱心な職人7人が米国カリフォルニアの住宅事情を視察に行くところから始まりました。

大正、昭和初期には西洋の技術・デザインと日本古来の木造技術を融合した立派な建築物が数多く建設されました。そうした大正ロマンを彷彿とさせるデザイン性と時代を経ても資産価値の下がらないアメリカの住宅を参考に、現代的な機能と環境を備えた住宅が「平成ロマン館」です。

マスタープラン、ハウスデザイン、ランドスケープデザインについては、それぞれ専門のアメリカデザイナーを起用、秩父産のスギ材を豊富に使用した在来軸組プレカット工法を採用しました。床材も特注の木製サッシもスギを使用しています。内壁、天井はクロスを使わないドライウォールによる塗装仕上げで20年、30年経っても古びることはありません。そのほか、セントラルエアーシステム、インナーガレージ、天井高2700mm、南欧風のスペイン瓦の形状を日本古来の瓦の製法「いぶし銀」で実現したオリジナル瓦など、視察で見たアメリカ住宅をお手本に長く愛着をもって住み継がれる家を形にしました。

同じコンセプトで建設した賃貸アパート「平成ロマンタウン」は、住んでいる人に非常に好評で、アパート経営で古くなっても空き部屋の出ないような大正ロマン風のデザインで差別化した建物を建てたいとお考えの方には本当にお薦めだと思います。

——ログハウス事業部もありますね。

代表的なログハウスは奥秩父の「雲取山荘」です。それ以外にも公園施設や案内標識などに木材の持つ美しさを最大限に生かした



平成ロマン館の特徴をそのままに、賃貸形式のアパートメントタイプ

「平成ロマン館」と同じコンセプトで施工されている賃貸アパート「平成ロマンタウン」

様々な製品を手掛けています。

——防腐、防蟻処理にも力を入れているとのことですが。

当社では、ホウ酸塩を使った防腐、防蟻処理を実施しています。一般的に行われているのは、土台や大引に防腐木材を使用し、地面より1m以内の構造体に薬剤を吹き付ける方法です。しかし、合成殺虫剤は3～5年で分解や揮発してしまいます。また、シロアリには床下にいるヤマトシロアリやイエシロアリだけではなく、最近被害が報告されている空から飛んできて屋根裏の木材に繁殖する外来種のアメリカカンザイシロアリもいます。

そこで、当社が木造住宅の寿命を延ばすために一番簡単で確実な方法として提案しているのが、屋根部分も含む全構造物・下地材をホウ酸水溶液に浸漬することです。ホウ酸塩は、人やペットに安全で昆虫や微生物に高い毒性を持つ自然の中に存在する天然物ですから安全・安心です。さらに、揮発性がないので空気を汚さず、持続効果もあります。オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどでは住宅を長持ちさせるのにホウ酸塩処理は一般的です。



当社が施工した奥秩父山系「雲取山荘」

また、ホウ酸塩を減圧・加圧注入装置を使って二重真空法によりスギ材に注入し、ウッドエイド（木材用撥水剤として開発されたシリコンゴムエマルジョン）塗装をした外構用木材「もちすぎ」を開発しました。当社のプレカット工場のフェンスに施行し、その耐久性を実証しています。外構用部材は南米産の堅くて丈夫なものがよく使われますが、それとは違う持ち味の国産のスギ材に耐久性と撥水性をもたせた外構材です。

京セラフィロソフィーを勉強中 趣味は読書、武田邦彦氏のファン

——最後に社員に期待すること、そして趣味についてお聞かせください。

社員に期待するというよりも自分自身の勉強のため稲森和夫氏の塾に入れていただき、京セラフィロソフィーについて学んでいます。それを社員と一緒に勉強していこうと思っています。好きな言葉は、素直と簡素。

趣味は読書で、武田邦彦先生や渡部昇一先生の本をよく読んでいます。先日、武田先生の講演会があって、本にサインをいただきま

した。先生のブログは量が多くて読むのは大変ですが、毎日チェックしています。また、最近読んだ本では、渡辺正先生の『地球温暖化』神話 終わりの始まり」にとっても共感しました。環境問題は林業に関係する大きな問題で、特に植林した木は手入れして伐採しなければだめですが、渡辺先生のような視点も大事だと思います。そのほかバードウォッチングや登山も趣味です。

スギやヒノキはいい匂いがします。自然から生まれる木のぬくもりを家づくりにいかして、木の良さを伝えて続けたいと思います。——安心、安全で住みやすい木造住宅を目指して工法が日々進化している様子と、その最先端をいくのがウッディーコイケさんの技術だと知りました。秩父の木がいつまでも私たちの生活の近くにあるように、さらに先の100年を目指してほしいと願っています。

本日は、ありがとうございました。

株式会社ウッディーコイケ概要

創 業	1911年
設 立	1953年
資 本 金	3,700万円
売 上 高	45億4,134万円（2011年4月期）
従 業 員 数	139名
本 社	・木材事業部・ログハウス事業部 〒369-1871 秩父市下影森181 電話 0494-22-2821
平成ロマン館（モデルハウス）	秩父市上影森131-2 電話 0494-24-3888
集成材事業部	秩父市上影森164 電話 0494-22-2821
プレカット事業部 在来 PC 工場	秩父市下影森1220 電話 0494-22-3225
プレカット事業部 金物・羽柄 PC 工場	秩父市大字久名那字下の台1860 電話 0494-25-2455
ホームページ	http://www.woody-koike.co.jp/
取 引 店	秩父支店